

北海道地区自然災害科学センター活動報告メモ

(1) 予算の執行

配当額 2,389,000円 [付属施設経費] を通常活動経費および本センター報告出版等にあてる。

【注】昭和50年発足以来の累計額：43,412,629円

(2) 一般活動 [地区幹事会・センター運営委員会 (合同), 研究懇談会など]

第1回：平成元年4月13日

資料センター運営委員会：

- 1) 昭和63年度報告および関連事項

研究懇談会：

- 1) 堀口郁夫 (北大農)：アメダスデータについて
- 2) 霜山正雄 (河川情報センター)：河川情報センターについて
- 3) 太田 裕 (北大工)：資料センターのあり方

第2回：平成元年7月24日

資料センター運営委員会：

- 1) 平成元年度第1回災害情報委員会 (京都) 報告
- 2) センター報告 Vol. 4 の発刊
- 3) 平成元年度予算および事業計画の審議
- 4) センター長の交代について

第3回：平成元年9月22日

資料センター運営委員会：

- 1) 次期地区部長および資料センター長の後任選考
平成元年9月13日 選考委員会 (小野延雄委員長他)
次期地区部会長：菊地勝弘 (北大理, 平成2. 4. 1より)
次期センター長：板倉忠興 (北大工, 平成1. 10. 1より)
- 2) 研究連絡会議 (北大) 報告
- 3) 災害データベースの構築について (加賀谷誠一)

第4回：平成元年11月20日

資料センター運営委員会：

- 1) 平成元年度事業経過報告

- 2) 今後の事業計画
- 3) 災害データベースの構築について
- 4) センター報告 Vol. 5 の原稿募集

研究懇談会：

- 1) 藤原滉一郎（北大農）：森林破壊及びこれに伴う環境問題と日本の役割

(3) 研究教育活動

- 1) 災害データベースの構築：平成元年度文部省研究成果公開促進費の下で、全国6地区が災害データベースの構築を行うことになった（代表者：角屋睦・京大防災研教授）。北海道地区では、従来太田裕・前資料センター長がその衛に当って来たが、現在は加賀屋誠一・環境科学研究科助教授が分担者としてデータベースの構築を行っている。
- 2) 教養部・総合講義（1学年後期）の実施：従前に引き続き、総合講義『災害の学際的研究』（責任者：太田裕・前資料センター長）を以下の10名で担当、実施した。太田 裕（工）、勝井義雄（理）、若濱五郎（低温）、藤田睦博（工）、佐伯 浩（工）、小野有五（環境）、堀口郁夫（農）、酒井良男（元工）、金田弘夫（元文）、金子佳弘（道庁）。
- 3) その他：総合班ワーキンググループとして、「地上および衛星リモートセンシングを用いた豪雪の検知・予測方法の検討」（代表者：上田博・北大理助教授）が行われた。

(4) 出版活動

- 1) 北海道地区自然災害科学資料センター報告、第5巻（平成2・3：本号）

(5) 地区総会：1990年2月2日、北大環境研講堂にて地区部会と合同で開催

- 1) 年次報告
- 2) 特別講演の実施
 - 勝井義雄（北大理学部教授）：北海道の火山
 - 清水 弘（北大低温研教授）：災害の記録―黒3発電所建設工事の場合
- 3) 懇親会（北大百年記念館）

(6) その他

- 1) 災害資料センターの概算要求が認められた。昭和61年度に事業費が打ち切られ、以来毎年、センター事業費を年度毎に復活要求したが、概算要求で要求中の特別施設としての災害資料センターが、平成元年度より正式に認められた。
- 2) 平成元年10月1日付、太田 裕・前資料センター長の東大地震研究所転任に伴い、後任に

北大工学部土木工学科板倉忠興教授が就任した。

3) 総合班研究連絡会議メンバーの交代：

- 農林災害分野：堀口郁夫・北大農学部教授（平成元年度より）
- 雪氷災害分野：秋田谷英次・北大低温研教授（平成2年度より）
- 北海道地区部会長：菊地勝弘・北大理学部教授（平成2年度より）